

取組名	新旧の工作機械が混在する西尾工場内のモノづくりDXの具現化		
企業名	光工業株式会社（西尾市）		
業 種	自動車部品・附属品製造業	従業員数	200名

使用デジタルツール
iXacs 〔i Smart Technologies(株)〕

課題・背景

汎用設備において、設備ごとの時間当たり出来高を記録する業務プロセスがないため、可動率など定量的に検証できない。

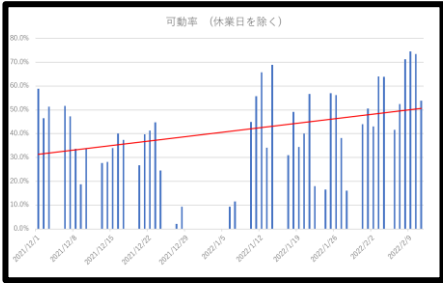
ゆえに、段取り待ち等の非稼働要因によって生産が止まっても気付きを得ずらい生産現場となっており、リードタイム、製造コスト短縮につながる改善活動の停滞を招いている。データ取りは製造直接作業者に過度な負担を強いるため実践に踏み切れない現状があった。

取組内容

IoTデジタル技術を用いて、信頼性のある設備稼働データを取得し、『可動率』『稼働阻害要因』を統計的に見える化することで、定量的な改善目標をたて非稼働時間を低減することが、『可動率』向上ひいては、収益改善に寄与することを体現することを目標として取り組みました。

データ取得後、占有率の高い『停止要因』を絞り込み、設備停止理由の問題点を検証し、集中的に問題解決に取り組みました。

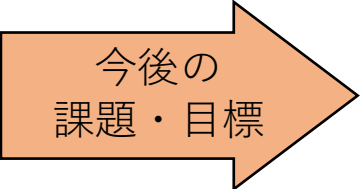
改善結果は、翌日データですぐに容易に確認でき、効果的に改善をPDCAすることを体現することができました。



結果・効果

1日に92回あった個別『停止要因』を0にすることが達成でき、『可動率』も改善前に比べ4.4%向上することが達成できました。

支援活動を通じ、信頼性あるCT・停止時間・異常内容等データを実際に得ることができたことで、問題点への気付きや改善の機会創出を得られ、実際に『可動率』向上などの成功体験を得ることができました。



- 【課題】「稼働状態の見える化」、「カイゼンのアイテム出し」、「改善の実行」までは実践できたが、会社の収益改善につながるかどうか“費用”の効果検証まで至らなかった。
- 【目標】継続的にIoTデータを活用し、改善活動を継続することで、収益改善に寄与していきたい。